

第6回研究会の開催

1. はじめに

第6回研究会を開催したので概要を報告します。

2. 第6回研究会

2023年(令和5年)8月21日(月)、テーマを「成熟先進社会におけるインフラメンテナンス」と題し、愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻の吉井稔雄教授からご講演をいただきました。

(1) どうしてインフラメンテナンスが必要なのか

交通の起源は、人と物の移動そのものが目的であった。物々交換ができる時代になると、分業が可能になり、交通は目的から手段になった。交通の費用を下げることで経済が活性化することとなった。

経済発展のために、メンテナンスによって実現すべき目標は、安価な交通(道路)サービスを継続的に提供することである。特に、分業が割に合わなくなるまで交通費用が高くなると、自給自足に頼らざるを得なくなり、著しい生産性低下を招く。

(2) 交通(道路)インフラの状況は？

道路インフラ老朽化は、アメリカが我が国よりも30年以上先行している。

1967年：シルバー橋崩落、死者46名

1981年：ブルックリン橋ケーブル破断、死者1名

1983年：ミアヌス橋崩落、死者3名

2007年：ミシシッピ川橋崩落、死者9名

これらを経て、2007年に公共投資と維持管理に大型予算を計上した。

我が国では、2004年から橋梁点検が本格化した。2007年のミネアポリス高速道路崩落事故を受けて我が国の橋梁にも懸念が広まった。調査の結果、全国7県及び1567区市町村で橋梁の点検を

行っていなかったことが判明した。

2012年には中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故が発生し、一気に大きく社会問題化した。

2037年度には、国土交通省所管インフラの維持管理・更新費が、同省所管インフラの2010年度総投資額を上回るとの推計もある。

インフラのメンテナンスフリー化はライフサイクルコストの削減につながる。平面交差点のラウンドアバウト化は一つのメンテナンスフリー化である。

(3) 交通(道路)インフラメンテナンスがなすべきことは？

交通(道路)インフラの社会的便益は利潤から建設費・維持管理費・走行費用を除いたものである。

道路メンテナンスの目的は、安価な交通(道路)サービスの継続的な提供である。費用の削減に向けてライフサイクルコストを意識した整備・保全、新技術導入による技術レベルの向上、技術者の確保が肝要である。



第6回研究会の様子

3. 終わりに

次回以降の活動についても、また本誌にて報告させていただきます。